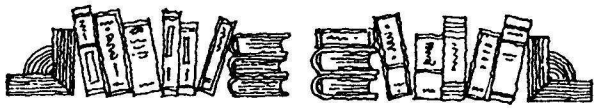
日本女子大学

国語国文学会だより



No. 18　　1997. 11

日本文学科卒業生の会

国語国文学会 秋季大会・公開講演会のご案内

平成九年度の秋季大会（研究発表会・公開講演会）を、左記のように開催いたします。師走近く、またご多忙のこととは存じますが、お誘い合わせのうえご出席くださいますよう、ご案内申し上げます。なお、会員以外の方々のご参加も歓迎いたします。

日時・平成九年十一月二十九日（土）

場所・（午前）香雪館　二〇二教室　・（午後）八〇年館　八五一教室

【午前の部】研究発表会　香雪館二〇二（午前十時～十二時十分）

(1)森鴎外『仮面』―反転するホモソーシャル―
新制41回・院31回生　藤木　直実氏

(2)六条御息所の社会的背景 ―前坊の後宮から―
新制37回・院27回生　柳澤理恵子氏

(3)林扶美子『放浪記』の言語検索
新制八回生　宇治土公三津子氏

【午後の部】総会・公開講演会　八〇年館八五一（午後一時十五分～四時十五分）

＊開会の辞　（学生委員）

＊活動報告・連絡事項　（学生・卒業生各委員）

＊学科科長挨拶　源　五郎先生

(1)中国思想史学と現代中国をつなぐもの
日本女子大学助教授　谷中　信一氏

―　休憩　―

(2)文学と音楽の間
―オペラ『忠臣蔵』を執筆して思うこと―
作家　島田　雅彦氏

＊閉会の辞　（卒業生委員）

懇親会のご案内

秋季大会終了後、生協食堂ウィミンにて、先生方、在学生をまじえて交流のひとときを、懇親会を開きます。島田雅彦氏もご参加くださいます。

会員の皆さまの多数のご出席を心からお待ち申し上げております。

なお、同封の葉書にて出欠をご連絡ください。

時　・午後四時三十分～六時十五分

場所・生協食堂ウィミン（七〇年館一階）

会費・卒業生　三千円

在学生　千五百円

（当日大会受付にて会費を頂きます）

＊出欠席はがき締切　十一月二十二日(土)!!

秋の講演会・講師プロフィール

島田　雅彦氏のご紹介

一九六一年、東京に生まれる。四歳で川崎市に移る。県立川崎高校から東京外国語大学ロシア語科へ進学。三年次よりソ連・東欧研究会で活動。四年在学中の八三年、「海燕」に掲載された「優しいサヨクのための嬉遊曲」が八九回芥川賞候補作となるのを始め、以後三回続けて芥川賞候補となり、新しい世代の作家として注目される。

八四年、『夢遊王国のための音楽』で第六回野間文芸新人賞を、九二年、『彼岸先生』で第二〇回泉鏡花文学賞を受賞。現代の社会風刺と若者の意識の襞を微妙に描き分け、イロニーを含んだ瀟洒な文体が人気を集め、今までにない新しい文才の持ち主として、期待されている。

八五年には俳優として舞台に立ち、九二年には自作「ルナ」を演出するなど、劇作にも才能を発揮。九四年から毎日新聞夕刊に連載された「忘れられた帝国」では、挿絵も自身で描く。また九七年、オペラ「忠臣蔵」を執筆（作曲三枝成章）、好評を得る。遊女役として出演した佐藤しのぶ氏と、NHKテレビでオペラのアリアを歌ったシーンをご覧になった方も多いかもしれないが、大のオペラ好きであり、歌うことも大好きとか。趣味は他にバイオリン。

まさに多芸多才、今までの小説家とは違った才能と感性で、文壇を飛翔しつづける。

そうした華やかさの蔭には、郊外生活を愛し、「しかし、私の考える郊外は……あくまでユーラシア大陸、オーストラリア、南北アメリカ、アフリカをもゆるやかに結びつける帝国でなければならない。世界の郊外を結ぶネットワークの理念は道徳であり、懐しさであり、友情であり、ユーモアであり、ナンセンスである。私はそのネットワークを忘れられた帝国と名づけた。金儲けや政治的な影響力を度外視し、国家主義を牽制し得る〝場所〟……それこそ帝国の理想である。私はそういう〝場所〟に暮らしたい（後略）」（『忘れられた帝国』付記より）に見るように、ヒューマニズムに支えられたロマンチシズムが溢れて見える。

新しい世紀の文学の担い手として、どんなお話が伺えるのだろうか。

（総務）

著書

『亡命旅行者は叫び呟く』『語らず、歌え』『僕は模造人間』『アルマジロ王』『天国が降ってくる』『ココロ町』。エッセイ集『認識マシーンへのレクイエム』『偽作家のリアルライフ』『愛のメエルシュトレエム』など多数。

秋季大会の一日を母校で――

研究発表会へのご案内

秋季大会のうち、講演会は午後からですが、午前中の研究発表会にもご参加くださいませんか。発表も質疑も学会にふさわしい熱のこもったもので、ぜひ、一度ご参加を。

藤木直実さんは、大学院の研究生、現在卒業生の会の常任委員（総務）として会務にもたずさわっています。

柳澤理恵子さんは、当会の自主ゼミ「皇女研究会」の責任者で、「皇女総覧平安朝篇の作成」に取り組んでおられます。当会が発会の時から毎月一回、研修会を開いてきておられます。

宇治土公三津子さんは、長年近代文学館で課長として資料収集に務めてこられました。退職後も同館の図書資料委員を務めるかたわら、大学講師として活躍しておいでです。

秋の大会は、午前の研究発表を大学院の委員が、午後の大会、懇親会を卒業生の会が中心となって学部の委員と一緒に任に当たっております。当然、すべての点で研究室のお力添えを頂いての開催です。

そんな点も、ぜひご理解の上、大会をお楽しみください。

秋の講演会・講師プロフィール

谷中　信一先生のご紹介

谷中先生は、中国古代哲学・思想史研究の第一線で、旺盛な研究活動を展開されている中堅研究者でいらっしゃいます。現在は、先秦時代の中国思想史を時間と空間という二つの座標軸の上で研究することを主要テーマとされ、主に斉地方（現在の山東省）を中心に思想史の再構成を精力的に試みておられます。本学では、日本文学科の専任教員として「中国思想」の講座を担当され、誠実かつ熱気溢れる授業で、ポスト新人類ともいうべき現代の学生の心を確実に捕らえ、人気を博していらっしゃる先生です。

先生と中国との出会いは古く、高校の世界史で中国が黄河文明以来偉大な歴史を持ち続けていることを知り、驚嘆されたことに始まるそうです。大学では、一旦は法学部に進まれますが、やはり自分の求めていたものは中国古代哲学であると気付いて文学部に入り直され、以来今日まで、中国思想の研究と教育に情熱を傾けてこられました。

昨年一年間中国に留学され、中国は飛行機で飛べば僅か二時間の距離だが、彼我の違いはきわめて大きいと認識される一方、思いがけないところで共通点を発見されたこともあり、改めて隣国同志だなという思いを深められたそうです。今回の「中国思想史と現代中国をつなぐもの」と題するご講演では、留学体験がご専門の研究にもたらした生きた成果や今後の研究課題など、興味深いお話をふんだんにうかがえることと、皆さまともども心待ちにしている次第です。

（文学部日本文学科教授　倉田　宏子）

〔経歴〕

一九七二年　早稲田大学法学部卒業
一九七四年　同文学部東洋哲学専修卒業
一九七六年　同大学院修士課程修了
一九七九年　同大学院博士課程後期満期退学
　　早稲田高等学院教諭
一九九〇年　日本女子大学専任講師
一九九四年　同助教授
一九九六年四月～一九九七年三月
　　日本学術振興会特定国派遣研究員として北京・山東・西北各大学に留学

〔主要研究業績〕

編著書・日本中国『管子』関係論文文献総目索引（早稲田大学出版部）
共　著・新釈漢文大系『淮南子』上中下（明治書院）・「大隈重信『東西文明之調和』を読む」（フマニタス選書北極出版）
論　文・「『逸周書』の思想と成立について―斉学術の一側面の考察」（日本中国学会報第38集）＊昭和62年度日本中国学会賞受賞・「中国古代の天人論管見」（『倫理学論集』30）他多数。

成瀬記念館の展観を

(2)　記念館では、『シリーズ・日本女子大学の卒業生　平塚らいてうとその学友』展を開催中です。らいてうといえば「元始、女性は太陽であった」で有名であり、『青鞜』の発行が思い出されますが、青鞜社発起人五人のうち、三人は国文学部の卒業生です。中野初（四回生）木内錠（四回生）、保持研子（八回生）。

今回の展示では、らいてうの学友としてその他に大村嘉代子（国一回生）、田村俊子（国一回生・中退）、上田君（国四回生）、木村政（家三回生）、高村智恵子（家四回生）、茅野雅子（国四回生）、武市綾（英六回生）、斉賀琴（国中退）上代タノ（英七回生）、神崎恒（文八回生）を取り上げると同時に、創立者成瀬仁蔵の教育理念、当時の日本女子大学校の教育、教授陣などが紹介されています。

また、らいてうの蔭に隠れがちであった画家、工芸家として夫奥村博史が描いたらいてうや家族の肖像、絵画、工芸品（指輪など）が展示され、家庭人としてのらいてうの側面も偲べて興味深い展示となっています。

会　期　～　十二月十九日（金）まで
開館日　火～土曜（除祝日）
時　間　九時三十分～十六時三十分

記念館の展観も予定に組まれ、秋季大会の一日を、母校でゆっくりとお過ごしください。

お願いとお詫び

平成十年度は回生委員の改選の年です

回生委員・常任委員の任期は二年で、来年は改選の年です。ここ何年か、回生委員・常任委員は重任の状態が続いています。ぜひ、来年度こそ、新しい息吹を導入し、会の一層の発展をはかりたいと思います。

どうぞ、各回生の皆さま、回生委員へ、そして常任委員をお引受けください。回生委員の皆さまには、いずれ改選のお願いをお送りいたします。

郵便番号が七桁に変わります

平成十年二月から郵便番号が七桁になります。また、来年には新らしい名簿の作成を計画中です。今大会の出欠席はがきで、ぜひ、新郵便番号をお書き加えください。

また、転居先不明でご案内が戻ってきています。転居の際はぜひご連絡をください。

会費請求について、お詫びを

「国語国文学会だより」発送の際（八月）、会費の請求をさせていただきました。「会費は何年までお払いしているでしょうか」というお問い合わせも多いこともあって、また、会費の増収をはかって、未納年の納入をお願い致しました。

手数のかかる仕事でもあり、会計担当者は暑い最中、何日もかけて作業を致しましたが、何人かの方に間違いの請求をし、ご迷惑をおかけしてしまいました。ご不快な思いをなされましたことと、心よりお詫び申し上げ、今後注意してまいります。

また、何年か遡っての会費の請求につきましても、ご意見を頂きました。そうした点を回生委員会では充分検討していきたいと思っております。

昨今、郵送費がかさみ、会費の納入をどうしても急く状況にあります。そうした状況もあって、何年か会費を未納の方には、会報の発送を一時中止させて頂くことも、検討する必要があるかもしれません。

会費について、ご意見、ご希望がございましたら、ぜひ、お聞かせください。

お詫びを申し上げつつ、勝手ですが、まだ会費未納の方は、ぜひご送金くださいますよう、重ねてお願い申し上げます。

振替用紙のない方は、郵便局で、

振替番号　〇〇一九〇－六－九七〇七
日本女子大学国語国文学会卒業生の会

ご記入を。回生をお忘れなく。回生がおわかりにならない場合は、卒業年度をお書きください。

会員の著書のご紹介

後藤祥子編『王朝和歌を学ぶ人のために』
（世界思想社　一三八〇円＋税）

Ⅰ王朝和歌への誘い　Ⅱ王朝和歌を読む　Ⅲ和歌世界の広がり　の三章にわかれ、すべてを女性研究者が執筆しています。当会の会員の方々も執筆されています。

大会当日、当会の会員の著書、また講演者の著書の頒布を計画しております。ご存じの著書、ご希望の著書がございましたら、急ぎ、ご連絡ください。

（〇三―三七八一―六三八〇　総務　斉藤合子宛）

今回も発行がたいへんに遅れました。申し訳ございません。また、前回よりシールへの印字がトラブルを起こし、これまたご迷惑をおかけしております。

修理に努めてはおりますが……

国語国文学会だより
・発行日　一九九七年十一月十五日
・発行者　日本女子大学国語国文学会
卒業生の会